

科目名	教育心理学			ナンバリング	EDU131	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	名取洋典	担当教員					

授業の概要	適切な教育実践を行うためには、幼児・児童・生徒の発達に応じた知的機能や対人的な特性を理解することが必要である。また、集団としての学級、学習の評価、教師の成長等、教育の場における心理学的機能は多様な側面にわたる。これらの教育心理学の諸側面を説明し、適切な教育実践へとつなげる基礎を築く。						
到達目標	1 教育心理学の基本的な知識を身につけることができる 2 基本的な知識を基に、学校教育における教師の実践を心理学的な視点から理解することができる						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	特に予備知識は必要としないが、授業で扱う内容について教科書を参考にしながら予復習を行うことが大切である。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 教育心理学に関して、基本的な内容が理解できている 2 学校教育における教師の実践を心理学的な観点から理解できる	1 教育心理学に関して、基本的な内容が理解でき、適切な言葉で説明できる 2 学校教育における教師の実践を心理学的な観点から理解、説明できる

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(期末試験)	○	○			○		40%
中間レポート	○	○	○		○		20%
授業内レポート	○	○	○	○			20%
授業態度・授業への参加			○	○			20%

課題、評価のフィードバック	毎回の授業内レポートについては、次回の授業内でフィードバックを行う。中間レポートについては期末試験前にフィードバックを行う。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	教育心理学とは	「学びと適応を支える」ことの意義について説明する	
	第2回	学びの理論(1)	成熟論、行動主義、構成主義の各理論について説明する	
	第3回	学びの理論(2)	認知心理学、社会文化論、状況論について説明する	
	第4回	学びの場とその移行	家庭でのしつけから学校教育、さらには生涯学習の場まで、移り行く学びの場と異なる学び方について、学生個々の振り返りに基づいて考える	
	第5回	学びの意欲	学生は実際にビデオに映る子供の様子から「やる気」を評定する。評定の経験に基づきながら、動機づけ理論について説明する	
	第6回	学びの仕組み	記憶のモデルから分散認知まで、認知的な処理の特徴について説明する	
	第7回	学びの諸相	文字の獲得、数の獲得、文書算出、計算がどのように可能になってくるのか発達のな特徴を説明する	
	第8回	学びの開発と体系化	学習者の特徴を理解した上で、どのように授業を作っていくのかを考える	
	第9回	主体的な学びの授業	主体的な学びをうながす授業法について説明したのち、実際に、ジグソー学習による課題解決に取り組む	
	第10回	個に応じた学びの援助	学習者個人の特性とそれぞれの特性に合わせた教授法の組み合わせの可能性について考える	
	第11回	適応の理解と支援(1)	虐待、仲間関係、向社会的行動について説明する	
	第12回	適応の理解と支援(2)	自我の確立とキャリア、学級集団について説明する	
	第13回	適応の理解と支援(3)	「子どもを支える」ことの必要性、方法について討論する	
	第14回	学びと適応の評価	指導につながる評価の在り方について、これまでの心理学的な知見に元づき考える	
	第15回	教師の成長	教師自身の学びについて、これまでの学生自身の学び方を反省的に振り返りながら考える	
	試験	全講義終了後に期末試験(筆記試験)を実施する。試験範囲は全範囲とする。		
授業の進め方		プレゼンテーションソフトを使っでの講義形式で行う。必要に応じて、グループでの課題解決に取り組む。		
授業外学習の指示		次週の授業で扱う教科書の内容に、一度目を通しておくこと。教科書での疑問点を整理し、必要に応じて、他の文献も調べること。解消できなかった疑問点について、授業中の小レポートを行う際に、質問すること。教科書をもう一度読み、疑問点を解消すること。授業内容と自分自身の経験と結びつけて考えることで、理解を深めること。より良い教育実践につなげられるよう考えること。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)		

教科書	中澤潤 『よくわかる教育心理学』やわらかアカデミズム・わかるシリーズ ミネルヴァ書房 2,700円:ISBN 978-4-623-05104-5
参考書	適宜、紹介する。
参考URLなど	
その他	manab@IMUを利用して授業内小課題を出題します。回答することが可能な準備をして授業に臨んでください。 自分自身の教育体験と授業内容を結びつけながら理解して欲しい。